

プラザからのお知らせ ~地域の情報をお探しの方、すぎなみ協働プラザをご活用ください!~

助成金を活用してみませんか!

今回取り上げた各地の「お祭り」はいずれも、立ち上げに際して自治体の助成金や事業採択を受けています。例えば「花と緑の井草祭り」は東京都の企画提案型事業補助金、「千日紅市」は杉並区の商店街活動助成金、「荻窪ハーモニーまつり」は杉並区の「元気を出せ商店街事業補助金」などです。

イベントは特に立ち上げ時にお金がかかりますが、自分たちだけで資金集めをするのは大変です。助成金などを活用すると、資金集めに費やす労力や時間を他のことに充てることができます。

すぎなみ協働プラザは、イベントに限らずまちづくり全般にわたる官民の助成金制度についての情報をそろえています。どのような助成金が適しているか、申請手続きはこうしたらよいかなども個別にアドバイスしています。お気軽にご相談ください。



すぎなみ地域づくり勉強会

5月の勉強会を下記のとおり開催します。奮ってご参加ください。

- ◆日時:平成29年5月27日(土)
16:00~17:30(終了後18:30まで懇親会)
- ◆場所:阿佐谷地域区民センター4F 交流コーナー
- ◆ゲストスピーカー:本橋宣彦氏(馬橋稲荷神社禰宜)
- ◆テーマ:「今、神社について考える
~地域づくりのヒントは?」
- ◆参加費:無料(懇親会200円)
- ◆申し込み:sanka@nposupport.jp
または下記電話番号へ
- ◆連絡先:03-3314-7260

2016年度 テーマ一覧(開催済み)

日時	テーマ・タイトル
4月28日	演劇×地域 ~演劇と地域はつながれる?~
5月26日	本×街 ~本で地域を変えるヒント?~
6月30日	すぎなみで聞く 南相馬(福島)レポート
7月30日	キーワードは「ご近所付き合い」馬橋ご近所付き合い広目隊に聞く
8月20日	働くことから始めるソーシャル・デザイン
9月26日	NPOがご近所力を磨く!
10月27日	他地区の事例から考える 杉並の観光
12月9日	すぎなみで育つネパールの子供たち
1月26日	杉並の空き家活用について知る 現状の課題と可能性
2月24日	地域デビュー大作戦2017

リレーコラム 茶もっこ

「茶もっこ」とは? 新潟県・松代地方の言葉で、通りすがりの人でも軒先に招き、もてなすお茶の意味。

取材でつながる

4月からすぎなみ協働プラザの広報担当として活動を始めました。仕事から人に会う機会が少なくありません。取材だったり、打ち合わせだったり目的はいろいろですが、会う人の多くは個性的で、話し好きです。苦労話であれ自慢話であれ、相手の気持ちに沿いながら聞くと、あふれんばかりに言葉が流れ出てきます。取材は仕事ではありますが、わずか1時間ほどの会話で友人になったような、得した気分になります。そうして「友人」を増やしていくことも、協働プラザの役割の一つだと思っています。これからいろいろな人にお会いすることを楽しみにしています。(広報担当:平山真人)



(後列左から2番目)

ヒトコト・フタコト

通勤途中、地元をしかめっ面で歩いていた。すると馴染みの美容師さんにばったり。「おう!」と一声かけられ、なんとなく嬉しい気持ちになりました。
一瞬で気分が変わるんだから自分も単純だと思いつつ、日常に非日常が表れて消えていく、こういう感じ、いいよな~と楽しみました。
お祭りもこれに似ています。いろいろな人と接して、その場で別れて、帰り道はなんとなく心地いい。適度な距離感のつながりを感じられる、お祭りにはそういう機能もあると思います。(小野寺)

すぎなみ協働プラザ

<http://www.sugi-chiiki.com/nposupport>

〒166-0004 阿佐谷南1-47-17 阿佐谷地域区民センター4階
TEL:03-3314-7260 FAX:03-3314-7265
E-mail:info@nposupport.jp

- 開館日:月/水~土曜日 午前10時~午後6時
- 休館日:日・火曜日、第3水曜日、年末年始(12/28~1/4)
- アクセス
- JR中央線・総武線「阿佐ヶ谷駅」より徒歩2分
- 東京メトロ丸ノ内線「南阿佐ヶ谷駅」より徒歩7分
- ※自転車でお越しの方は中庭駐輪場をご利用ください。
- ※駐車場はありません。



「すぎなみ協働プラザ」は、杉並区からの事業委託により「NPO法人CBすぎなみプラス」が運営しています。

CAMP

SPRING
春
2017年05月発行



「祭り」でまちづくり

今月のLine up

- ・特集:妙法寺門前通りの「千日紅市」
~縁日の活気を取り戻したい~
- ・助成金を活用してみませんか!
- ・すぎなみ地域づくり勉強会

各地で始まった「祭り」によるまちづくり

～原動力は危機感と挑戦～

人口減少や少子高齢化の影響による地域の衰退は地方に限ったことではありません。杉並区のような都市部でも住民の人口や商業施設、にぎわいなどで地域格差が生まれています。「このままではいけない」という商店街の危機感、「新しいことをしたい」という若い世代の挑戦が原動力となり、活性化へ向けた様々な取り組みが各地で始まっています。本号ではここ10年ほどで起爆剤となるイベントを企画し、にぎわいや交流を創り出そうとしている地域の「祭り」を取り上げてみました。

「祭り」はまちづくりの象徴でもあります。まちづくりは一人ではできません。商店会や町会、学校など地域のいろいろな団体の協力が必要になります。参加する個人・団体が多くなるほど意見の調整や段取り等に時間がかかりますが、それはまちづくりを進めるうえで欠かせないプロセス。「祭り」を通じて住民、団体同士がつながっていく...それがまちづくりの基盤になっているようです。



妙法寺門前通りの「千日紅市」

緑日の活気を取り戻したい



杉並区堀ノ内の妙法寺といえば日蓮宗の本山。厄除けのお祖師様として親しまれ、多くの参拝客が訪れる寺です。毎月3が付く日が縁日とされ、市が立つなどそのにぎわいは江戸時代から続いていました。その妙法寺の門前通り商店会を中心に今、かつての活気

を取り戻そうと新しい緑日「千日紅市」プロジェクトが展開されています。

千日紅は初夏から晩秋まで長い間、赤紫の小さな丸い花を咲かせます。百日紅(さるすべり)より長く咲くのが名前の由来。堀ノ内では商店会などが種から花になるまで大事に育てており、それがこのプロジェクトのシンボルになりました。

門前通り商店会の山田博会長(和菓子と蕎麦の清水屋店主)によると、平成20年ごろには68店舗あった商店街も店主の高齢化などでくしの歯が抜けるように閉店し、現在は36店舗までに減りました。

会長夫人でプロジェクトの発案者、山田重子さんは「店主の高齢化に加え、商売を妙法寺の縁日に頼り過ぎたのも原因。シャッター街にならないように皆で町おこしをしたい」とその動機を明かします。ご近所で咲いていた美しい千日紅を見てひらめいた重子さん。種をもらって自分で育て、商店街に飾ったのが「千日紅市」の「起源」でした。



花を育てて広がる人の縁

2009年から始めた「夏のふれあい祭り」(7月)と歳末感謝祭(12月)に続き、2014年からは「千日紅市」をスタートさせました。千日紅市プロジェクトには商店会をはじめ地元町会・自治会、千日紅同好会、阿佐ヶ谷美術専門学校など地域団体が参加。もちろん妙法寺も境内を会場として提供するなど全面的に協力しています。

第1回の千日紅市は2014年10月。屋台村やフリーマーケット、人力車などを配置し、来場者には千日紅の鉢を無料配布(500鉢)しました。来場者は約8000人。第2回からは千日紅を妙法寺に奉納する行列を企画しています。

着物姿の「千姫」「紅姫」やお稚児さんをはじめ商店会や町会関係者が長い列を作り、門前通りを妙法寺まで歩きます。今年は10月3日(火)の縁日が開催日。「千姫」「紅姫」に「日姫」も加わるとか。

回を重ねるにつれて地域の協力者も増えてきました。学校支援本部、学生ボランティア、企業などが協力を申し出ています。「千日紅を育てることで、人の縁が広がっています」と山田重子さん。

「(千日紅市を)ずっと続けて、次世代に引き継いでいきたい」と力を込めました。



information

- ◆ホームページ
<http://www.sen-nichi.com>
- ◆問い合わせ
03-3311-0725(清水屋)
info@sen-nichi.com

花と緑の井草祭り

地域特性生かし、にぎわい演出

井草地域は杉並区の最北端に位置し、野菜や草花の生産が盛んな地域ですが、荻窪、高円寺などJR中央線沿いの地域の魅力・価値を高めよう」と、地元の事業者や町会、商店街が中心になって2009年にスタートしたのがこの祭りです。

祭りは春(5月)と秋(10月)の2回、井草森公園広場(当初は荻窪園芸地方卸売市場)を会場に開かれます。今春は5月20日(土)の開催です。祭りの目玉は井草らしい切り花、鉢花、植木、鉢花の抽選会と植木、野菜の即売会。抽選会ではくじが当たると胡蝶蘭など高級な花ももらえます。

都立農芸高校の和太鼓、大道芸などが出演するほか、「花と緑の絵はがきコンテスト」入選者発表・展示もあり、毎回約3000人の来場者でにぎわいます。

地域づくりを推進している「花と緑のステキなまち井草協議会」の佐藤則好会長は「地域自らの手で元気できれいな街にしたい」と話しています。



information

- ◆ホームページ
<http://www.igusakyogikai.com>
- ◆問い合わせ
03-3220-1211
東京商工会議所 杉並支部

杉並ヒーロー映画祭

映画で地域の暮らしを豊かに

「自主制作作品の映画祭で杉並を盛り上げたい」と、一味違った「祭り」を開催しているのはNPO法人COSMO FEST。明治大学のゼミ生4人が卒業後に始めた挑戦です。4人も20代。若いエネルギーを全開しながら試行錯誤を続けています。

「杉並ヒーロー映画祭」と銘打った映画祭は2016年6月にスタートしたばかり。座・高円寺を会場に新進気鋭の監督が生んだ作品を多数上映したところ、幅広い映画ファンが集うなど反響がありました。収支は赤字ですが、「これからも映画祭を継続してほしい」という声に4人は勇気づけられています。

第2回の今年は6月11日(日)、12日(月)の開催。昨年を上回る応募の中から厳選した自主制作映画のコンペティションや、長編映画などを特別上映します。

また、年2回、高齢者向け生活支援事業を行うNPO法人と共催で「久我山ヒーロー映画祭」も開催。多世代を巻き込んで活動の幅を広げています。

代表の平中孝祐さんは「ヒーローはどんな世代でも楽しめて分かりやすい。映画を観てもらうことで、少しでも地域の暮らしが豊かになれば」と話しています。



information

- ◆ホームページ
<http://cosmofesttokyo.com>
- ◆問い合わせ
cosmofestjapan@gmail.com

荻窪すずらんハーモニーまつり

あんさんぶる荻窪と商店街がコラボ

この祭りは2005年、杉並区の施設である「あんさんぶる荻窪」と、近接しているすずらん通り商店街が連携して始めた珍しいイベント。「せっかくなので新しい施設を住民に利用してほしい」という「あんさんぶる」側と「商店街にお客さん呼び込みたい」という商店街側の意向が一致して実現しました。

会場は「あんさんぶる」と商店街に分かれています。出展などで協力します。

あんさんぶる荻窪会場では、消費生活展、環境展など関連団体による催し物のほか、福祉作業所のパン販売などがあります。

すずらん通りでは、餅つき、フリーマーケット、近隣学校の生徒による演奏会も行われます。2会場を回るスタンプラリーもあり、子どもから大人まで楽しめます。

今年は6月3日(土)、4日(日)の開催。区立施設再編整備の関係で、残念ながら「あんさんぶる」での開催は今年が最後。主催者は「ぜひ来てほしい」と呼び掛けています。



information

- ◆問い合わせ
03-3398-3141
杉並区消費者センター
荻窪ハーモニーまつり実行委員会事務局